

活動が総合活動である。それは、学ぶ内容が先あって、その学習展開もあらかじめ決まっているような「教師主導の学び」ではなく、子供がやってみたい、調べてみたいという思いを持ち、子供自身が学ぶ内容や学び方を決めていくような、「はじめに子供ありき」の学びである。

そこで、総合活動を実施していく上でのポイントを次のようにおさえた。

- 学ぶ価値や必然性を感じる
  - 自分がやりたいことに自分なりの方法で取り組むこと
  - 体験的な学習を通して学ぶこと
- そのために教師は、次のような点を配慮していく。

- 子供の思いや願いを見取ること
- 地域の施設・人材を活用すること
- 各教科の充実と関連を図ること
- 弾力的な学習展開をすること
- ITを積極的に活用すること

## (2) 学年テーマの設定

子供の学びは何もないところからスタートするのではなく、対象があって、その対象に学ぶ価値や必然性を感じたときにスタートすると考える。そこで、対象となる1年間の総合活動の学年テーマを設定した。設定にあたっては、まず、目の前の子供の姿や子供の思い、地域の実態、教科の学習内容などをとらえ、そこに、私たち教師の願いを込めて設定した。

この学年テーマによって、テーマをもとにした総合活動が可能になり、子供たちの学びが深まり、広がっていくと考える。さらに、1年間を通したテーマをもつことによって、学びが連続し、子供たちのテーマに対する意識が高まっていくと考える。

### 【本年度の学年テーマ】

- 1年「みんな なかよし」  
自分のまわりの自然や人、社会とふれあい、仲良く活動しよう。
- 2年「みんなのよさを」  
自分のまわりの自然や人、社会とふれあい、自分や友達のよさを見つけよう。
- 3年「わたしたちの まち」  
わたしたちのまちを調べ、人々のかかわりを考えよう。
- 4年「水とわたしたち」  
水の姿を調べ、自分の生活とのかかわりを考えよう。
- 5年「命の姿を」  
様々な命にふれ、命の姿やかかわり方を見つめよう。
- 6年「生き方を見つめて」  
人間の生きざまにふれ、自分の生き方を見つめなおそう。

## II 研究の実際

以上のような構想のもと、学年ごとにテーマをもとにした総合活動を実践してきた。その中で、第6学年の取り組みについて述べる。

### 1 第6学年の総合活動の年間構想

